

今日のみことば

□ 8月6日(日) 創世記 25章

アブラハムにつながる諸民族を位置づけ、彼自身の生涯の記録の結末が記されている。イサクからの選民の歴史の展開の必要な土台がここで据えられている。

□ 8月7日(月) 創世記 26章

イサクを主人公とする唯一の章。イサクの生涯の幾つかの出来事が収録されている。アブラハムの生涯の出来事に類似する部分があるが、両者の性格的相違は顕著に現れている。

□ 8月8日(火) 創世記 27章

神は「兄が弟に仕える」と言う約束の家系について明らかにされる。選びの民でありながら、互いに傷つけ、欺き、自分の意思を貫こうとする、愚かさを指摘される。

□ 8月9日(水) 創世記 28章

ひとり旅に出たヤコブは、ベテルの郊外で野宿した。その夜彼は夢を見た。天使たちが天を上り下りしていました主は彼の側に来て、アブラハム、イサクに与えられて

□ 8月10日(木) 創世記 29章

ヤコブはハラんで、叔父ラバンのもとで20年間住んだ。ハラんでのヤコブの苦労は、一面からは彼への暴きの性格を持っているが、同時に彼の神への目的の訓練の機会でもあった。

□ 8月11日(金) 創世記 30章

ここには人間のみにくいあさましい姿が暴露されている。これが人間なのかと、教え諭すよう。神はこのような人間を見捨てられない。そこに神の愛がある。

□ 8月12日(土) 創世記 31章

ヤコブのハラン逃避は、まことに人間的な推移でしたが、そこにも神さまのご支配はあった。ラバンと契約を結び、排水の陣を引き、兄エサウを向き合うこととなる。

ろ ば No. 1827

2017年 8月 6日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ19:28

この後、イエスは、すべて
のことが今や成し遂げられ
たのを知り、「渴く」と言
われた。こうして、聖書の
言葉が実現した。

それがイエスの十字架に向きあうときの姿勢に現れていると言えるのです。

イエスは「渴く」と言われました。聖書には「イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り」とあります。イエスが「渴く」と叫ばれた言葉の背後に何かある、と思わさせられます。聖書学者は様々な推測、理解を語ってくれますが、その大切なことの一つは、イエスは苦痛の極みにおられたということです。ローマ兵士たちは、イエスのその言葉を聞いて「人々は、この酸いぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブにつけ、イエスの口もとに差し出した」とあります。「わたしは渴

イエスの十字架は私たちの人生に大きな影響を与えたことは、すでにご存じです。その苦痛が極限に達したイエスは「渴く」と叫ばれました。この言葉が何を告げるかはお分かりでしょう。神の御子イエスが、何をそこまで苦痛を忍べなければならなかったのですか。私のためです。私の罪のために負われた苦しみです。私たちはそのことをしっかりと受け止めることが出来ているか、と問われるなら、出来ているとは言えません。「罪の支払う報酬は死である」と言われて、それを実感としている人はわずかです。私は、ほんとうに私たちの内にある罪の意識の希薄さを覚えずにはおれないでいます。神との向き合いの希薄さを感じずにはおれないと言うことです

く」とは、切実な肉体的要求から発せられたイエスの言葉です。イエスはその民を贖うためにほふられる、まことの過越し小羊として十字架につけられました。

私はいま一つ大切なメッセージがあることを聞かせていただくのです。「こうして、聖書の言葉が実現した」と言われることです。イエスは御父のもとから出てきて、今や御父のもとへ帰ろうとしておられる。そこには私たちの罪の贖いのために一切を負っておられるイエスがおられる。なぜイエスがそこにおられるのか。それこそがしっかりと私たちが聞き取らなければならない大事なことです。主の使いは「この子は自分の民を罪から救う」(マタイ1:21)と告げ、イエスは「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人々の身代金として自分の命を捧げるために来た」(マタイ20:28)と言われました。イエスがご自分の苦難の死を告げられたとき、ペテロがそれをたしなめるとイエスは「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」と(マタイ16:21-28)と叱責されました。

このナザレ人イエスこそ、人々が、いや私たちが求めていた救い主です。私たちはこのイエスの苦悩を、しっかりと見つめさせていただくかねばなりません。「渴く」と発せられたイエスを見つめながら、何をにをそこの見えていますか。詩篇に「口は渴いて素焼きのかけらとなり／舌は上顎にはり付く。あなたはわたしを塵と死の中にうち捨てられる」(詩篇22:16)とある。神はこの御子を私たちの救い主として下さいました。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

エペソ1:22-23 キリストは教会とともに

「すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。」神はキリストに、すべての大権をお与えになりました。世界はこのまことの王を知らないようであり、どこにもキリストの王権は見えないように思われる。しかしそれらの中にあつて、なおわれわれ教会は、キリストがこの世界を、歴史を支配しておられることを認めるのです。そうすることによってこそ、教会は教会たりえるのです。

これは一般世界と教会とを別々の所においては見ず、教会を世界のただ中においていることを意味します。教会は、世界のまただ中で、キリストの王たることを確知した者として、それを告示し、認知せしめ、服従せしめるべく、宣教と実証によって戦っていくのです。教会はキリストの身体です。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ヨハネ19:30

成し遂げられた